

一般質問



まるやま ちよこ 丸山 千代子 議員

問 インフルエンザワクチン助成を

答 対応を考え今後検討したい

インフルエンザは、高熱や筋肉痛、関節痛といった全身症状があらわれ、感染力が強く流行すると特に免疫力の弱い子どもが感染しやすい。最悪の場合は命にもかかわる。

愛知県は予防策としてインフルエンザワクチン接種が有効とつながっている。
問 県下で11市町村が実施把握は。
答 (健康福祉部長) 子どもインフルエンザワクチン



泣くのをこらえ健診を受ける

ン接種の助成制度があることは、確認している。
問 協会けんぽ、健康保険組合、愛知県市町村職員共済などは補助しているが国保は。
答 県下で、ワクチン助成をしているところはない。
問 高校生までの子どものインフルエンザワクチン接種費用の助成を。

内閣府が調査した40歳から64歳の中高年の「ひきこもり」は、全国で61万3000人。8割近くが男性で、ひきこもり期間は51%が5年以上であった。
ひきこもる中高年と、高齢の親が孤立する※8050問題が深刻さを増している。

問 ひきこもりのガイドラインは、当事者の相談、受診が重要とある。8050問題の支援体制を。
答 現在、第3水曜日「幸田町ひきこもり家族の集い」で、関係者で情報交換をする事業を行っている。必要な支援を進めていきたい。

問 市町村のさまざまな対応などを考えながら今後、検討したいと思っている。
答 (町長) 市町村のさまざまな対応などを考えながら今後、検討したいと思っている。

問 中高年がひきこもった原因は、一番多いのが退職。ひきこもりの実態調査を。
答 (健康福祉部長) 特にひきこもりの実態把握を行っている。問 支援体制を問う。

問 非核平和宣言を何とかが実現したい
問 その他の質問

ハチマルゴーマル 8050問題の支援体制を

答 必要な支援を進めていきたい

問 第8期の介護保険事業計画策定の二ス調査で、3000件ほどの調査の中に、ひきこもりに関する質問も加えて、状況を少しでも把握していきたい。

※8050問題
長期間の引きこもりをしている50代前後の子どもを80代前後の高齢の親が養い続けていることで発生する問題

一般質問



いざわ しんいち 伊澤 伸一 議員

問 財政の枠組みを作りあげるべき

答 住民税と固定資産税をベースに

7月23日、交付税の不交付団体が公表された。他市町村から羨ましがられるほど、豊かな幸田町も、財政は厳しいのが現状。持続可能な町として存続できるよう、財政構造改革に取り組みべき。

問 裕福であるにもかかわらず、財政が厳しい主な要因は。

答 **〔総務部長〕** 歳入面では法人町民税が、以前ほどの収入が得られない。若い世代の急速な人口増に伴い、子育て・教育基盤整備に要する費用など、扶助費と義務的経費が年々増加している。

問 将来の義務的経費の所要額を、どう把握しているか。

答 義務的経費のうち人件費は、会計年度任用職員制度の影響額を試算し、扶助費は、近年の増加傾向をみて見込みをたてる。

問 法人町民税と、ふるさと寄附金が皆無となっても、安定した財政運営ができるよう、財政の枠組みを作りあげるべきではないか。

答 **〔町長〕** 住民税と固定資

産税をベースに、財政を安定させるための方策をとる。

問 住居表示を取り入れる考えは

答 地元行政区と協議して決定

平成13年度から着手された、幸田駅前土地区画整理事業は、建物移転もほとんど終わり、間もなく完了すると思われる。

問 完了予定はいつか。

答 **〔建設部長〕** 2度の事業計画変更を経て、完了は令和4年を予定している。

問 総事業費はいくらか。そのうち、町が負担する一般財源はいくらか。

答 総額は51億円。一般財源総額は28億円。

問 工事後の民有地の面積の増減は。

答 事業前は、2万2956㎡、事業後は、1万6

734㎡で、約6022㎡の減となる。

問 最も重要なのはまちづくり。容積率を見直す考えは。

答 幸田駅前、高層マンションが建設可能になる容積率の変更は、妥当とは思わない。

問 土地の価値や町のイメージを高めるために、土地利用状況をみて検討する。

※住居表示を導入することを検討したらどうか。

答 道路や公園の工事完了後、字区域を変更する時期が来る。

住居表示は、地元行政区と協議して決定をしていく。

※住居表示

土地の地番とは別に、住所を○丁目△番地と表示すること。



完了間近の幸田駅前区画整理